



条例がまちづくりへの 参画の入口に

ばんば やすじ
馬場 康次さん

今回、自治振興会が条例で位置づけられ、区・自治会との役割が明確になったと感じています。条例の策定にあたり、市民が作業に参画したことは、市民による市民のための条例だからこそだと思います。

この先、少子高齢化が進みます進むと、地域性がなくなっていくことが心配されます。市内でもふるさとから離れる人が出てくるかもしれません。過疎化が進むと、地域をどう守っていくかは、自治振興会の担うべき課題だと考えています。

まちづくりのポイントは「押しつけ」ではなく「合意」だと思います。条例がまちづくりへの参画の入口となり、いろいろな年代の人たちが意見を出し合うことで、よりよいまちが築かれることを願っています。



役割分担で協働を 楽しむことで継続を

きせ きよし
黄瀬 聖師さん

私の携わる見守りネットワーク活動は、一人暮らしの方を地域で見守ろうと始まり、お年寄りの居場所として定着し、喜んでいただいています。今では信楽全体、さらに市内の他地域へも広がっており、地域の特性を生かして市内全域へと取り組みが進むことを願っています。

まちづくりを進めるには、リーダーシップが必要です。最初は引張ってもらいながら、次第に参加者が増え、役割分担により協働が進み、自分たちが楽しむことで、活動が長く続いていくと思います。

今後は条例を実行に移さなければなりませんし、いかに地域に根付かせるかが大切です。区を巻き込んでアクションを起こすなど、裾野を広げることで、条例が生きてくると思っています。

まちづくりのこれから

条例で変わってくるもの

まちづくり基本条例をつくるにあたっては、14人の策定委員の皆さんとともに進めてきました。皆さんには、素案を作る段階から参画いただき、約2年間にわたり熱心に議論を重ねていただきました。委員を代表して4人の皆さんに、この条例にかける思いをお聞きしました。



強みを生かし 弱みを補うまちづくりを

あだち
安達 みのりさん

「まちづくり」というと、子育て中のお母さんたちには無縁と思われるがちです。まずはそういった人たちが孤立しないように、地域や学校、行政などが連携して助けられたらと思います。助けてもらった人が、次は助ける立場になることで市民活動が盛んになればいいと思います。

私は子育ての分野でまちづくりに関わっていますが、人のため、地域のためではなく、何より自分が楽しむことが基本であり、自分の居場所となっています。

市内では、いろいろな方や団体が得意分野を生かして活動されています。お互いの強みを生かし、弱みを補い合い、人々が世代を超えて交流できるまちになれば、すばらしいと思います。



地域での芽生え成長が 甲賀市としての大輪に

みうら こういち
三浦 浩一さん

この条例が、『みんなが協力してまちづくりを進める』ための礎となり、だれもが「おもしろいな。よし、やるか」という気持ちになるきっかけになれば幸いです。また策定して終わりではなく、今後、いかに育てていくか、みんなで検証していくことも重要です。

条例の前文にもあるように、それぞれの自治に基づいて成り立っていた「郡中惣」の気質は今も息づいていると思います。市内各地域において30年先に、子どもたちが笑っている姿を思い描き、ここに住む者として、『何をすべきか』を考え行動することが大切に思います。

地域での取り組みが芽生え成長し、甲賀市として大きな花を咲かせることを願っています。